

Snowboard binding

Patent Number: ☐ US6604746
Publication date: 2003-08-12
Inventor(s): HARUNA MOTOMU (JP); SATO TOSHIAKI (JP); NAITO HIDEYUKI (JP); YAGYU YOSHIHIRO (JP)
Applicant(s): CARMATE MFG CO LTD (JP)
Requested Patent: ☐ JP11226171
Application Number: US19990240701 19990202
Priority Number(s): JP19980044295 19980212
IPC Classification: A63C9/04
EC Classification: A63C9/08D
Equivalents:

Abstract

A snowboard binding of the invention includes: a guide unit for properly guiding a tip portion of a left band while preventing the tip portion from entering a space of a buckle; an ankle strap fitting unit for optically fastening a ankle strap around a boot; an erroneous open preventing unit for preventing a lever of a forward inclination regulation mechanism from inadvertently releasing; a retaining unit for retaining the foot in a highback; and a binding discrimination unit

Data supplied from the esp@cenet database - 12

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-226171

(43) 公開日 平成11年(1999) 8月24日

(51) Int.Cl.⁹

A 6 3 C 9/02
5/00

識別記号

F I

A 6 3 C 9/02
5/00

C

審査請求 未請求 請求項の数16 F D (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願平10-44295

(22) 出願日 平成10年(1998) 2月12日

(71) 出願人 391021226

株式会社カーメイト

東京都新宿区榎町72番地

(72) 発明者 佐藤 俊朗

東京都新宿区榎町72番地 株式会社カーメイト内

(72) 発明者 内藤 秀幸

東京都新宿区榎町72番地 株式会社カーメイト内

(72) 発明者 柳生 芳弘

東京都新宿区榎町72番地 株式会社カーメイト内

(74) 代理人 弁理士 澤木 誠一 (外1名)

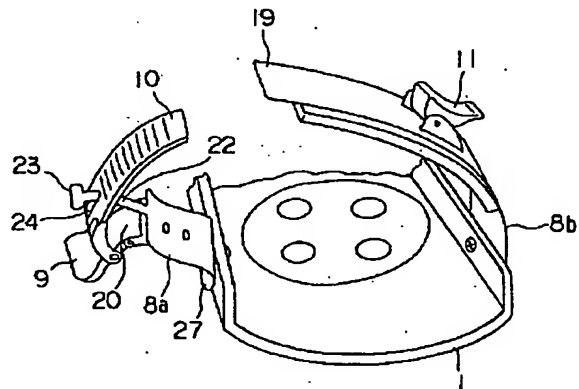
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 スノーボード用ビンディング

(57) 【要約】

【課題】 従来のスノーボード用ビンディングにおいては、ラチェットベルトの締付けに手間がかかり、また、ハイバックの前傾調整部材が誤作動する恐れがあった。

【解決手段】 本発明のスノーボード用ビンディングにおいては、バンドの先端部がバックルの空間内に入るのを阻止し、正しくガイドするためのガイド手段と、アンクルストラップ及びトゥストラップの一方及び他方のバンドをベースプレートに対して外方に常時開くよう付勢せしめる手段と、アンクルストラップによるブーツの締め付けを最適ならしめるための手段と、前傾調整部材のレバーの誤開放防止手段と、ハイバックに係合する足の保持手段と、ビンディング識別手段の少なくとも1つを設ける。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ベースプレートと、このベースプレートの一侧にその一端を枢支した一方のバンドと、その一端を上記一方のバンドの端に連結し、その他端にラチェットベルトを連結したバックルと、上記ベースプレートの他側にその一端を枢支し、その他端に上記ラチェットベルトと連結される連結部を有する他方のバンドと、上記バックルを開放した時に上記ラチェットベルトとの間に生ずる空間部に上記他方のベルトの連結部の先端が入り込むのを防止するための手段とより成ることを特徴とするスノーボード用ビンディング。

【請求項2】 上記防止手段が、上記一方のバンドの他端から外方に伸びるビームと、このビームを挿通せしめるため上記ラチェットベルトに設けた貫通孔とより成ることを特徴とする請求項1記載のスノーボード用ビンディング。

【請求項3】 上記防止手段が、上記一方のバンドの他端に形成した、その幅が上記ラチェットベルトより大きく、上記他方のバンドの連結部の幅より狭い貫通孔を有する舌片より成ることを特徴とする請求項1記載のスノーボード用ビンディング。

【請求項4】 上記バンドを常時ベースプレートの外方に開くよう付勢する手段を更に有することを特徴とする請求項1、2または3記載のスノーボード用ビンディング。

【請求項5】 上記付勢手段が、上記バンドの一端部に形成した湾曲より成ることを特徴とする請求項4記載のスノーボード用ビンディング。

【請求項6】 上記付勢手段が、上記バンドの一端部に形成した横溝より成ることを特徴とする請求項4記載のスノーボード用ビンディング。

【請求項7】 ベースプレートと、このベースプレートの後部に垂設したハイバックと、上記ベースプレートの一侧にその一端を枢支した一方のバンドと、上記ベースプレートの他側にその一端を枢支した他方のバンドとよりなり、上記バンドの一端が、上記ベースプレートの側面と上記ハイバック間に挿入されていることを特徴とするスノーボード用ビンディング。

【請求項8】 上記ベースプレートと上記ハイバックとの間に介挿した厚さ調整部材を更に有することを特徴とする請求項7記載のスノーボード用ビンディング。

【請求項9】 上記厚さ調整部材が、楔状の介挿体であることを特徴とする請求項8記載のスノーボード用ビンディング。

【請求項10】 上記厚さ調整部材が、上記ハイバックに向かって進退するよう上記ベースプレートに螺合したネジであることを特徴とする請求項8記載のスノーボード用ビンディング。

【請求項11】 ベースプレートと、このベースプレートの後部に垂設したハイバックと、上記ベースプレート

の一侧にその一端を枢支した一方のバンドと、上記ベースプレートの他側にその一端を枢支した他方のバンドとよりなり、上記バンドの一端が、上記ハイバックの内側に配置されていることを特徴とするスノーボード用ビンディング。

【請求項12】 ベースプレートと、このベースプレートの後部に垂設したハイバックと、上記ベースプレートの一侧にその一端を枢支した一方のバンドと、上記ベースプレートの他側にその一端を枢支した他方のバンドと、上記ハイバックの背面に設けた傾動自在なレバーを有する前傾調整部材とよりなり、上記前傾調整部材が、上記ハイバックの背面に設けたギアと、このギアに噛合する、ギアをその内側面に有するその底面が上記ベースプレートの背部上面に係合されるアジャスターと、このアジャスターを任意の高さ位置で上記ハイバックに固定せしめるための起伏自在なレバーと、このレバーを倒したときこれを格納するため上記アジャスターに設けた窪み部とより成ることを特徴とするスノーボード用ビンディング。

【請求項13】 上記レバーを倒したとき、上記レバーの先端が上記ベースプレートと上記ハイバックとの間に格納されることを特徴とする請求項12記載のスノーボード用ビンディング。

【請求項14】 ベースプレートと、このベースプレートの後部に垂設したハイバックと、上記ベースプレートの一侧にその一端を枢支した一方のバンドと、上記ベースプレートの他側にその一端を枢支した他方のバンドとよりなり、上記ハイバックが上記ベースプレートの後部にその基部を枢支した下部ハイバックと、この下部ハイバックの上部にその下部を傾動自在に枢支した上部ハイバックとより成ることを特徴とするスノーボード用ビンディング。

【請求項15】 ベースプレートと、このベースプレートの後部に垂設したハイバックと、上記ベースプレートの一侧にその一端を枢支した一方のバンドと、上記ベースプレートの他側にその一端を枢支した他方のバンドとよりなり、上記ハイバックが上記ベースプレートの後部にその基部を枢支した下部ハイバックと、この下部ハイバックの上部にその下部を高さ調節自在に設けた上部ハイバックとより成ることを特徴とするスノーボード用ビンディング。

【請求項16】 ベースプレートと、このベースプレートの一侧にその一端を枢支した一方のバンドと、上記ベースプレートの他側にその一端を枢支した他方のバンドと、上記ベースプレートその他に写真等の識別手段を取り付けるための透明体とより成ることを特徴とするスノーボード用ビンディング。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明はスノーボード用ビン

ディングに関するものである。

【0002】

【従来の技術】図18は従来のスノーボード用ビンディングの側面図であって、1はスノーボード本体（図示せず）に固定されるベースプレート、2はブーツ、3はブーツ2の後面に対接されるよう上記ベースプレート1に連結されたハイバック、4は上記ベースプレート1に対し、上記ハイバック3を回動自在に枢支するための枢支部、5は上記ブーツ2の甲部を締め付けるため上記ベースプレート1に設けたアンクルストラップ、6はブーツ2のつま先を締め付けるため上記ベースプレート1に設けたトゥストラップ、7はハイバック3の背面に設けた、その下面が上記ベースプレート1の後方ヒールカップ1aの後端上面に対接されるハイバック前傾調整部材を示す。

【0003】図19は、上記トゥストラップ6の詳細説明図であって、8aはその一端を上記ベースプレート1の一侧に固定した一方のバンド、8bは上記ベースプレート1の他側にその一端を固定した他方のバンド、9は上記一方のバンド8aの遊端に連結したバックル、10はこのバックル9に連結したラチェットベルト、11は上記他方のバンド8bに上記ラチェットベルト10を連結するために設けたラチェット爪を有するロック部を示す。

【0004】なお、アンクルストラップ5は、上記トゥストラップ6と同一の構成を有する。

【0005】このような従来のスノーボード用ビンディングにおいては、ベースプレート1にブーツ2を装着するとき、上記アンクルストラップ5及びトゥストラップ6のラチェットベルト10とラチェット爪を有するロック部11の係合を外し、一方及び他方のバンド8a、8bを両手で互いに分離した後、ブーツ2を上記ベースプレート1にその上方から乗せ、図11に示すようにラチェットベルト10をラチェット爪を有するロック部11に挿入し、バックル9を締めてブーツの甲及びつま先をベースプレート1に固定せしめている。

【0006】また、図20～図22は上記前傾調整部材7の詳細説明図であって、12は上記ハイバック3の背面に設けられた鋸歯状のギア、13は上記ギア12に噛合するための鋸歯状のギア14をその内側面に有するアジャスター、15は上記アジャスター13に設けられた長孔16及び上記ハイバック3に設けられた孔17を貫通してその一端を上記ハイバック3に係合せしめたピン、18は上記ピン15の他端に枢支ピンを介して傾動自在に設けられた、上記アジャスター13の外側面に対接される偏心レバーを示し、図20に示すように上記前傾調整部材7のレバー18を倒してハイバック3にアジャスターを押しつけた状態では上記ハイバック3のギア12と上記アジャスター13のギア14が噛合し、上記アジャスター13は上記ハイバック3に固定され、この

状態ではハイバック3を後方に傾斜せしめたとき、上記アジャスター13の下面が上記ベースプレート1の後部上面に突き当たり、ハイバック3の傾斜が規制されるようになる。

【0007】また、図21に示すように上記レバー18を起こした状態ではギア12とギア14との噛合が解かれ、上記アジャスター13は長孔16の範囲内で図22に示すように上記ハイバック3に対して相対的に上下動でき、上記ベースプレート1に対するハイバック3の傾斜角度を調整せしめることができる。

【0008】

【発明が解決しようとする課題】然しながら、上記従来のスノーボード用ビンディングにおいては、

【0009】（1）アンクルストラップ5又はトゥストラップ6のラチェットベルト10をロック部11に係合する際、本来図19に示すように他方のバンド8bの先端部19が一方のバンド8aの下側に入り込むべきものが、しばしば図23に示すように一方のバンド8aの上側に入り込み、更に、バックル9を緩めたときに生ずる空間20に入り込んでしまい、上記バックル9を締めつけることができず、ラチェットベルトの装着に手間取り、また誤って上記先端19が上記空間20に入り込んだ状態でバックルを締めつけた場合には、ビンディング使用中にバックル9が誤って開放する等の問題があり、ラチェットベルトの装着にはコツがいるという欠点があった。

【0010】（2）また、ベースプレート1上にその上方からブーツ2を載せる際、手で一方及び他方のバンド8a、8bを上記ベースプレートの外側に夫々開く必要がありその操作が煩わしかった。

【0011】（3）また、アンクルストラップ5を締めつけた場合、図24に示すように足の甲部分21に締めつけ力が集中するため、足が痛む場合があった。

【0012】（4）また、上記前傾調整部材7のレバー18を倒してハイバック3にアジャスター13を固定しベースプレート1に対する上記のハイバック3の傾斜を固定したにもかかわらず、上記レバー18に物等があたりその衝撃で上記レバー18が起きてアジャスター13がハイバック3から離れて移動し、ベースプレート1に対するハイバック3の傾斜限度角が変わってしまう場合があった。

【0013】（5）また、ハイバック3の上端部がふくらはぎに食い込んで痛くなる場合があった。

【0014】（6）また、似たようなスノーボード用ビンディングが多いため、自己と他人とのスノーボード用ビンディング識別が困難であるという欠点があった。

【0015】本発明は上記の欠点を除くようにしたものである。

【0016】

【課題を解決するための手段】本発明のスノーボード用

ビンディングは、ベースプレートと、このベースプレートの一侧にその一端を枢支した一方のバンドと、その一端を上記一方のバンドの端に連結し、その他端にラチェットベルトを連結したバックルと、上記ベースプレートの他側にその一端を枢支し、その他端に上記ラチェットベルトと連結される連結部を有する他方のバンドと、上記バックルを開放した時に上記ラチェットベルトとの間に生ずる空間部に上記他方のベルトの連結部の先端が入り込むのを防止するための手段とより成ることを特徴とする。

【0017】上記防止手段は、上記一方のバンドの他端から外方に伸びるビームと、このビームを挿通せしめるため上記ラチェットベルトに設けた貫通孔とより成ることを特徴とする。

【0018】上記防止手段は、上記一方のバンドの他端に形成した、その幅が上記ラチェットベルトより大きく、上記他方のバンドの連結部の幅より狭い貫通孔を有する舌片より成ることを特徴とする。

【0019】上記バンドは常時ベースプレートの外方に開くよう付勢する手段を更に有することを特徴とする。

【0020】上記付勢手段は、上記バンドの一端部に形成した湾曲または横溝より成ることを特徴とする。

【0021】本発明のスノーボード用ビンディングは、ベースプレートと、このベースプレートの後部に垂設したハイバックと、上記ベースプレート的一侧にその一端を枢支した一方のバンドと、上記ベースプレートの他側にその一端を枢支した他方のバンドとよりなり、上記バンドの一端が、上記ベースプレートの側面と上記ハイバック間に挿入されていることを特徴とする。

【0022】上記ベースプレートと上記ハイバックとの間に介挿した厚さ調整部材を更に有することを特徴とする。

【0023】上記厚さ調整部材は、楔状の介挿体であることを特徴とする。

【0024】上記厚さ調整部材は、上記ハイバックに向かって進退するよう上記ベースプレートに螺合したネジであることを特徴とする。

【0025】本発明のスノーボード用ビンディングは、ベースプレートと、このベースプレートの後部に垂設したハイバックと、上記ベースプレート的一侧にその一端を枢支した一方のバンドと、上記ベースプレートの他側にその一端を枢支した他方のバンドとよりなり、上記バンドの一端が、上記ハイバックの内側に配置されていることを特徴とする。

【0026】本発明のスノーボード用ビンディングは、ベースプレートと、このベースプレートの後部に垂設したハイバックと、上記ベースプレート的一侧にその一端を枢支した一方のバンドと、上記ベースプレートの他側にその一端を枢支した他方のバンドと、上記ハイバックの背面に設けた傾動自在なレバーを有する前傾調整部材

とよりなり、上記前傾調整部材が、上記ハイバックの背面に設けたギアと、このギアに噛合する、ギアをその内側面に有するその底面が上記ベースプレートの背部上面に係合されるアジャスターと、このアジャスターを任意の高さ位置で上記ハイバックに固定せしめるための起伏自在なレバーと、このレバーを倒したときこれを格納するため上記アジャスターに設けた窪み部とより成ることを特徴とする。

【0027】上記レバーを倒したとき、上記レバーの先端は上記ベースプレートと上記ハイバックとの間に格納されることを特徴とする。

【0028】本発明のスノーボード用ビンディングは、ベースプレートと、このベースプレートの後部に垂設したハイバックと、上記ベースプレート的一侧にその一端を枢支した一方のバンドと、上記ベースプレートの他側にその一端を枢支した他方のバンドとより成り、上記ハイバックが上記ベースプレートの後部にその基部を枢支し下部ハイバックと、この下部ハイバックの上部にその下部を傾動自在に枢支し、または高さ調節自在に設けた上部ハイバックとより成ることを特徴とする。

【0029】本発明のスノーボード用ビンディングは、ベースプレートと、このベースプレート的一侧にその一端を枢支した一方のバンドと、上記ベースプレートの他側にその一端を枢支した他方のバンドと、上記ベースプレートその他に写真等の識別手段を取り付けるための透明シートとより成ることを特徴とする。

【0030】

【発明の実施の形態】以下図面によって本発明の実施例を説明する。

【0031】本発明のスノーボード用ビンディングにおいては、図1に示すように、他方のバンド8の先端部19がバックル9の空間20内に入るのを阻止し、正しくガイドするためのガイド手段Aと、アングルストラップ5及びトウストラップ6の一方及び他方のバンド8a、8bの少くとも一方、例えばバンド8aをベースプレート1に対して外方に常時開くよう付勢せしめる手段Bと、アングルストラップ5によるブーツ2の締めつけを最適ならしめるための手段Cと、前傾調整部材7のレバー18の誤開放防止手段Dと、ハイバック3に係合する足の保持手段Eと、ビンディング識別手段Fとを設ける。

【0032】上記ガイド手段Aは、図2及び図3に示すように、アングルストラップ5及びトウストラップ6の一方のバンド8aの先端に設けたT字状ビーム22と、上記T字状ビーム22の頭部23を上記ラチェットベルト10の下側から上側に貫通せしめるためラチェットベルト10の基部側に設けた貫通孔24とにより構成する。

【0033】上記ガイド手段Aは上記のような構成であるから、ラチェットベルト10をロック部11に係合す

る際、他方のバンド8bの先端19は上記T字状ビーム22に遮られて、バックル9を緩めたときに生ずる空間20内に入り込むことがなく、常に上記先端19は一方のバンド8aの下側にガイドされ、トゥストラップ等の装着に気を使ったり、コツを必要とせず素早い装着を可能ならしめることになる。

【0034】図4は上記ガイド手段Aの他の実施例を示し、この実施例においては一方のバンド8aの先端部にその幅がラチェットベルト10より大きく、上記他方のバンド8bの幅より狭い貫通孔25を有する舌片26を設け、この貫通孔25内に上記ラチェットベルト10を貫通せしめる。

【0035】この実施例においても、ラチェットベルト10をロック部11に係合する際、上記他方のバンド8bの先端部19は舌片26に遮られて上記空間20内に入り込めず、常に上記先端19は一方のバンド8aの下側にガイドされるようになる。

【0036】上記手段Bは、図2に示すように、一方のバンド8aの基部に形成したベースプレート1の外方に向かう湾曲27により構成せしめる。

【0037】上記手段Bは上記のような構成であるから、アンクルストラップ5及びトゥストラップ6のラチェットベルト10とロック部11の係合を外した状態では、一方のバンド8aはベースプレート1の外方に常時開き、従って、手を使うことなくベースプレート1にその上方からブーツ2を載せることができる。同様の湾曲27を他方のバンド8bの基部にも形成すればより好ましいことは勿論である。

【0038】なお、湾曲27を形成せしめる代わりに、バンドの基部の外側面に横溝（図示せず）を付け、上記バンドをこの溝部分でベースプレート1の外方に開く方向に曲げ得るようにしてもよい。

【0039】上記手段Cにおいては、アンクルストラップ5の一方のバンド8a及び他方のバンド8bの基部を夫々ベースプレート1の後方ヒールカップ1aの外周面に枢支する代わりに、図5に示すように、上記一方のバンド8a及び他方のバンド8bの基部を上記ハイバック3の外周面と上記ヒールカップ1aの内周面との間に通し、上記ヒールカップ1aに枢支ピン28を介して傾動自在に枢支せしめる。

【0040】上記手段Cによれば、図5に示すようにアンクルストラップ5を締めつけた場合、ハイバック3が内側に摺り合いハイバック3のかかと部分の幅が狭まりハイバック3によるブーツ2の足首のホールド性が向上すると共に、アンクルストラップ5とブーツ2の接触面積が従来に比べて広がるので、締めつけ力が分散されて足の痛みを緩和せしめることができる。

【0041】なお、アンクルストラップ5の一方及び他方のバンド8a、8bの基部を図6に示すようにハイバック3の内側に配置し、基部及び上記ハイバック3に形

成した孔を介して上記ヒールカップ1aに枢支ピン28を挿通せしめてもよく、この場合においては更にアンクルストラップ5とブーツ2の接触面積を広くとれるので足の痛みの緩和を図ることができる。

【0042】図7は上記手段Cの更に他の実施例を示し、この実施例においてはその基部29が先端に向って細くなる楔型をした一方又は他方のバンド30を用い、上記基部29を枢支ピン31を介して上記ベースプレート1のヒールカップ1aに傾動自在に枢支せしめると共に、上記基部29には上記枢支ピン31のための複数の貫通孔32a、32b、32cを上下に互に離間して設ける。

【0043】この実施例においては、例えばヒールカップ1aの横幅に比べてブーツ2の横幅が若干小さい場合、図7に示すように厚みの大きい上記基部29の最上段の貫通孔32aに枢支ピン31を挿通して上記基部29を上記ヒールカップ1aに枢支せしめれば、上記基部29の厚みにより上記ハイバック3は若干内側に移動し、上記ハイバック3の横幅を狭めることができるので上記ブーツ2を上記ハイバック3にフィットせしめることができる。一方ヒールカップ1aの幅とブーツ2の幅が略等しい場合には図8に示すように、厚みの小さい上記基部29の最下段の貫通孔32cを用いて上記基部29を上記ヒールカップ1aに枢支せしめればハイバック3の内側への移動は生ぜずブーツ2を上記ハイバック3にフィットせしめることができる。上記のようにこの実施例によれば、かかとの横幅を調整せしめることができる。

【0044】なお、図9に示すように、複数の貫通孔33を有する楔状の介挿体34を別体に設け、これをヒールカップ1aとハイバック3間に介在せしめて、かかとの幅を調整せしめてもよい。

【0045】また、図10に示すように、ヒールカップ1aにネジ孔35を設け、このネジ孔35にハイバック押圧用のネジ36を螺合し、このネジ36をヒールカップ外周面からハイバック3の方向にねじ込むことにより上記ハイバック3を上記ヒールカップ1aに対して内側に移動せしめるようにしてもよい。

【0046】上記誤開放防止手段Dは、図11に示すように、アジャスター13の外側面に窪み部37を設け、レバー18を倒した場合にこれが上記窪み部37内に配置されるようにする。

【0047】上記誤開放防止手段Dによれば、上記レバー18を倒した際、上記レバー18が上記アジャスター13内に配置されるので、転倒その他の場合でも上記レバー18に物等が当たることがなく、従って、上記アジャスター13とハイバック3との固定が解除されることはない。

【0048】図12は上記誤開放防止手段Dの他の実施例を示し、この実施例においては上記アジャスター13

の外側下面に切り込み38を設けると共に、レバー18の先端に延長部39を設け、上記アジャスター13を上記ハイバック3に固定するため上記レバー18を下方に倒したとき、上記レバー18の先端延長部39が上記アジャスター13の切り込み38を通して外方に突出し、この延長部39がヒールカップ1aとハイバック3内に格納されるようにする。

【0049】従って、この実施例においてもレバー18の誤開放を防止することができる。

【0050】上記足の保持手段Eにおいては、図13及び図14に示すように、ハイバック3を下部ハイバック3aと上部ハイバック3bとの2つに分離せしめ、上記下部ハイバック3aの上部に上下方向の長孔40と上下に離間した複数の枢支孔41を有する接続板42とを上記上部ハイバック3bの下部に設け、上記上部ハイバック3bの下部外面には接続板43を突出せしめ、この接続板43を上記長孔40を通して上記下部ハイバック3bの接続板42に任意の枢支孔41を介してリベット44により連結固定せしめる。

【0051】上記保持手段Eは上記のような構成であるから、上記上部ハイバック3bはブーツ2のふくらはぎ部分にそって上記下部ハイバック3aに相対的に傾動し、上記上部ハイバック3bに取り付けたハイバッククッション45が足に対して均一に押しつけられるのでフィット感を向上でき、足の痛さを防止せしめることができる。

【0052】また、上記枢支孔41の位置を変更せしめることにより上部ハイバック3bの高さを変えることができるので足の長さ、ふくらはぎの筋肉の付き方、老若男女、人様々で好みの位置に調節することができる。

【0053】なお、図15に示すように上記上部ハイバック3bの接続板43に複数の枢支孔46を設けて、上記下部ハイバック3aの接続板42に傾動自在に枢支せしめるようにしてもよい。

【0054】上記ビンディング識別手段Fにおいては、図16に示すように、例えばベースプレート1の上面1bやハイバック3の背面等に透明カバー47を取り付け、上記ベースプレート1等と透明カバー47間に写真又はシール48等を介在できるようにする。

【0055】なお、上記透明カバー47は上記ベースプレート1等に直接接着剤により、またはこれらに設けた例えば窪み部に接着、嵌め込み、ネジ止め等により固定する。

【0056】上記ビンディング識別手段Fによれば、写真等が濡れたり磨耗したり剥がれたりすることがなく、またオリジナル性を向上せしめることができ、他人のビンディングとの識別、アピール性の向上、盗難防止等を図ることができる。

【0057】なお、上記透明カバー47は硬い物でも良くクッション性を持たせたものでもよい。

【0058】また、透明カバー47の形状をブーツ2のソールの形状に形成せしめ、ブーツ2をビンディングにフィットせしめるようにしてもよい。

【0059】なお、図17に示すように上記透明カバー47を上記ベースプレート1の前方又は後方より外方に突出するように設けることにより、写真48等の介在のみならず、その突出部分によりブーツ2の先端部又は後端部を保持せしめることができ、ブーツ2のフィット性を向上せしめることができる。

【0060】

【発明の効果】上記のように、本発明のスノーボード用ビンディングにおいては、ブーツの装着性を高めると共に安全性、盗難防止等が高めることができる大きな利益がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明のスノーボード用ビンディングの斜視図である。

【図2】本発明のスノーボード用ビンディングのバンドガイド手段及び開放手段の説明用斜視図である。

【図3】本発明のスノーボード用ビンディングのガイド手段及び開放手段の説明用斜視図である。

【図4】本発明のスノーボード用ビンディングのガイド手段の他の実施例及び開放手段の説明用斜視図である。

【図5】本発明のスノーボード用ビンディングのアンクルストラップ締付手段の説明用正面図である。

【図6】本発明のスノーボード用ビンディングのアンクルストラップ締付手段の説明用斜視図である。

【図7】本発明のスノーボード用ビンディングのアンクルストラップ締付手段の他の実施例の説明用縦断側面図である。

【図8】本発明のスノーボード用ビンディングのアンクルストラップ締付手段の説明用縦断側面図である。

【図9】本発明のスノーボード用ビンディングのアンクルストラップ締付手段の他の実施例の説明用縦断側面図である。

【図10】本発明のスノーボード用ビンディングのアンクルストラップ締付手段の更に他の実施例の説明用縦断側面図である。

【図11】本発明のスノーボード用ビンディングの誤開放防止手段の説明用縦断側面図である。

【図12】本発明のスノーボード用ビンディングの誤開放防止手段の他の実施例の説明用縦断側面図である。

【図13】本発明のスノーボード用ビンディングの足の保持手段の説明用斜視図である。

【図14】本発明のスノーボード用ビンディングの足の保持手段の説明用縦断側面図である。

【図15】本発明のスノーボード用ビンディングの足の保持手段の他の実施例の説明用縦断側面図である。

【図16】本発明のスノーボード用ビンディングの識別手段の説明用斜視図である。

【図17】本発明のスノーボード用ビンディングの識別手段の他の実施例の説明用縦断側面図である。

【図18】従来のスノーボード用ビンディングの側面図である。

【図19】従来のスノーボード用ビンディングの正面図である。

【図20】従来のスノーボード用ビンディングの前傾調整部材の説明用縦断側面図である。

【図21】従来のスノーボード用ビンディングの前傾調整部材の説明用縦断側面図である。

【図22】従来のスノーボード用ビンディングの前傾調整部材の説明用縦断側面図である。

【図23】従来のスノーボード用ビンディングの説明用正面図である。

【図24】従来のスノーボード用ビンディングの説明用正面図である。

【符号の説明】

1 ベースプレート

1a ヒールカップ

2 ブーツ

3 ハイバック

3a ハイバック

3b ハイバック

4 枢支部

5 アンクルストラップ

6 トウストラップ

7 前傾調整部材

8a バンド

8b バンド

9 バックル

10 ラatchetベルト

11 ロック部

12 鋸歯状のギア

13 アジャスター

14 鋸歯状のギア

15 ビン

16 長孔

17 孔

18 レバー

19 先端部

20 空間

21 甲部分

22 T字状ビーム

23 頭部

24 貫通孔

25 貫通孔

26 舌片

27 湾曲

28 枢支ピン

29 基部

30 バンド

31 枢支ピン

32a 貫通孔

32b 貫通孔

32c 貫通孔

33 複数の貫通孔

34 楔状の介挿体

35 ネジ孔

36 ネジ

37 窪み部

38 切り込み

39 延長部

40 長孔

41 枢支孔

42 接続板

43 接続板

44 リベット

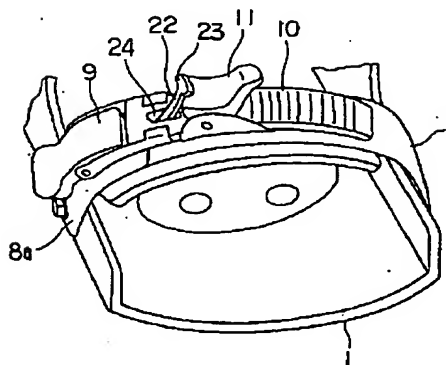
45 ハイバッククッション

46 枢支孔

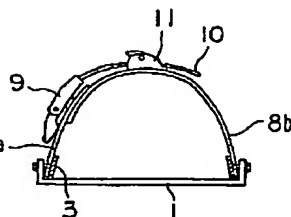
47 透明カバー

48 写真

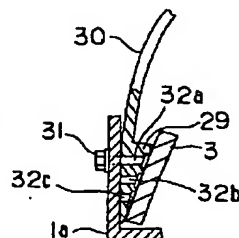
【図3】



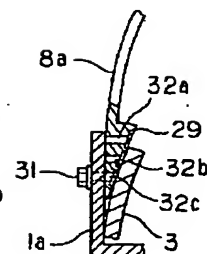
【図5】



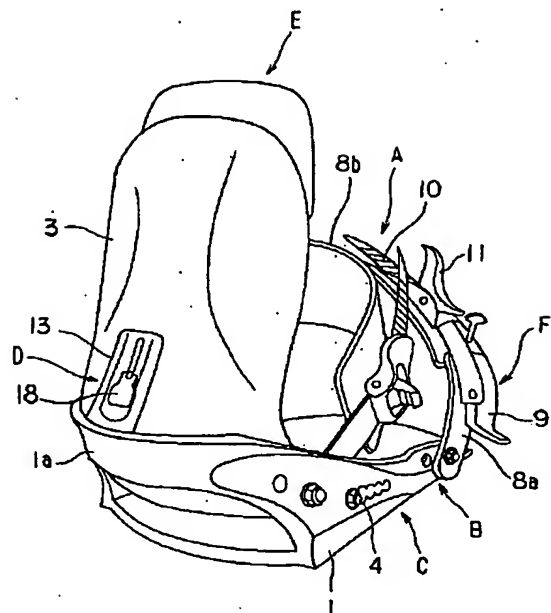
【図7】



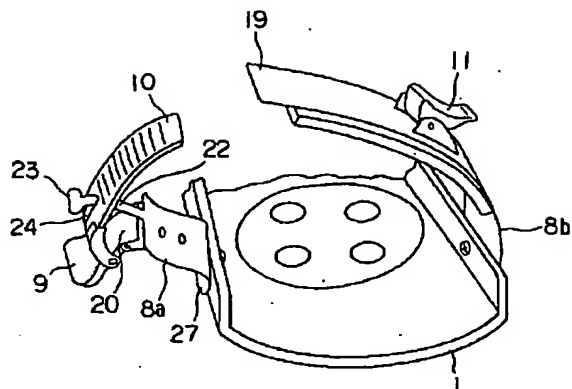
【図8】



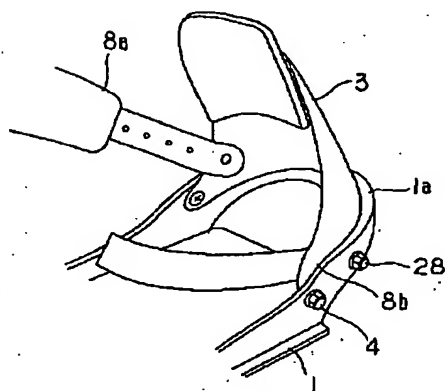
【図1】



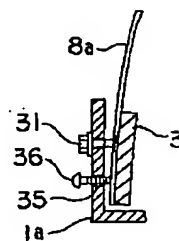
【図2】



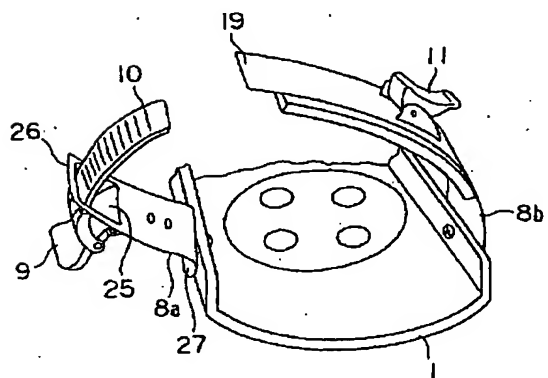
【図6】



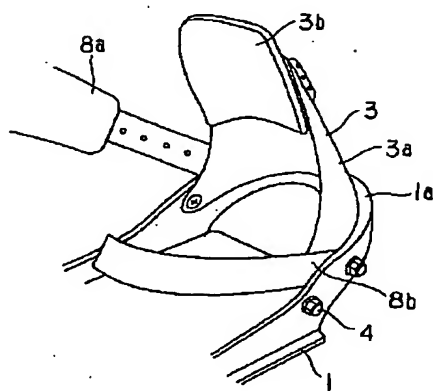
【図10】



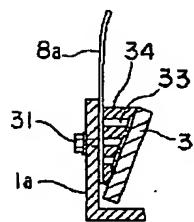
【図4】



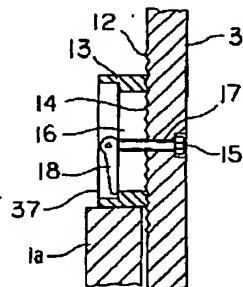
【図13】



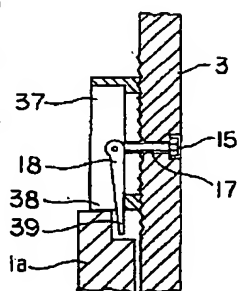
【図9】



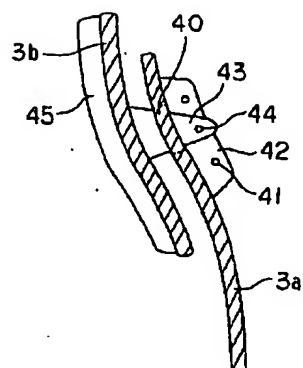
【図11】



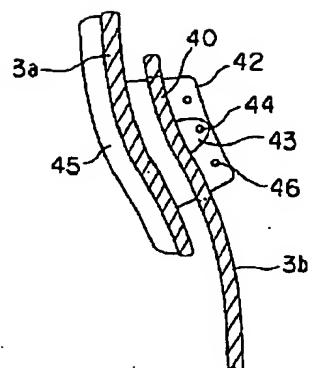
【図12】



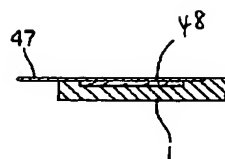
【図14】



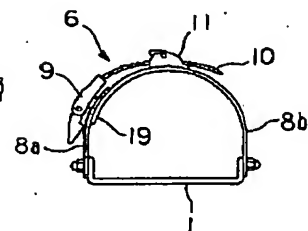
【図15】



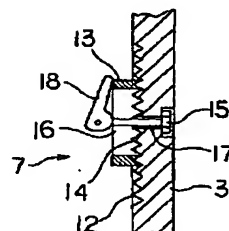
【図17】



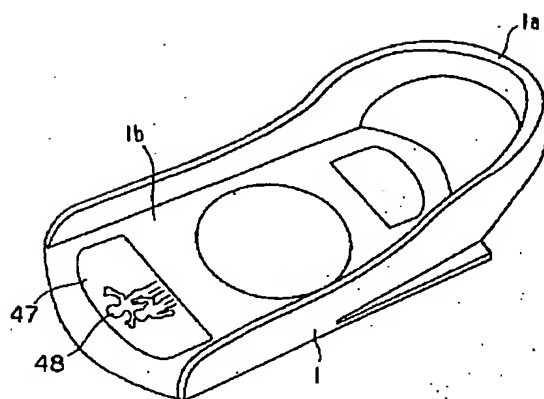
【図19】



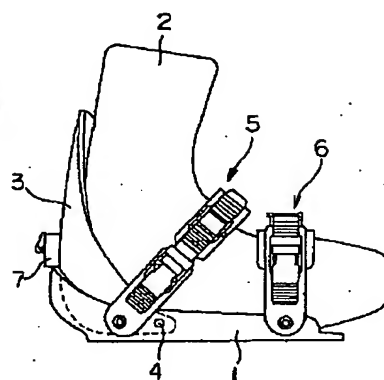
【図20】



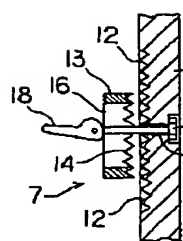
【図16】



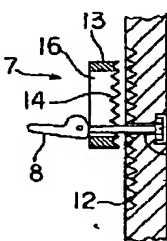
【図18】



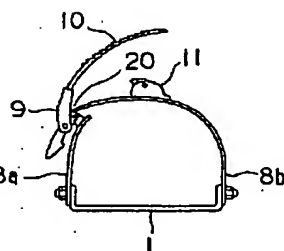
【図21】



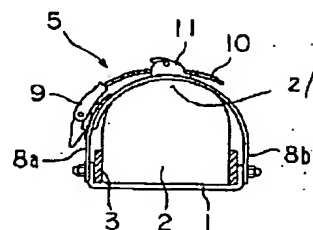
【図22】



【図23】



【図24】



フロントページの続き

(72)発明者 春名 求
東京都新宿区榎町72番地 株式会社カーメ
イト内